

第 8 回 発 表 集 会 印 象 記

高岡市保健センター 熊谷 武夫

第 8 回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会は去る 2 月 9 日 13 時 45 分から厚生連高岡病院地域医療研修センターで開催されました。

当日はこれまで毎回、会長としてこの集会を主催されていた豊田文一先生が御病気のため欠席されました。

このため開会に際しては、理事の越山健二先生が御挨拶をなさいました。

続いて厚生連の吉田会長が来賓として、この発表集会の成功を希望されるお話をされた後、会員の発表に入りました。

まず滑川病院の小川院長先生が座長席につかれて、越山先生の「プライマリーケアとターミナルケア」のお話がありました。

先生は上市厚生病院で、長い間院長として第一線の医療に従事なされた御経験を踏まえて、ややもすれば技術に片寄りがちな現代の医療の現場において、いわゆる心の問題の重要性を強調なさいました。

第 2 席は「高岡市における緑の調査結果」の発表でした。

高岡市農協青年部の西島さんは、青年部員の自宅の屋敷林の杉の木の状態のアンケート調査と、高岡市内の神社の杉の木の活力度調査を通じて、環境における緑の減少がはっきりしたと報告され、自然環境の破壊が身近な問題になりつつあることを報告されました。

第 3 席は富山医薬大・公衆衛生の寺西先生の大学研究棟の屋上における「空中花粉飛散状況」の御報告でした。

近年鼻アレルギーの原因の一つとして杉の

花粉が目目されていますが、先生は一年を通じて各種の花粉の状況を詳しく調査され、その結果を「富山市における空中花粉カレンダー」として発表されました。これによると 1989 年にはスギ科の花粉の飛散が少なく他の植物の花粉の飛散が目立ったそうです。

これにたいして、高岡病院耳鼻科の豊田先生が鼻アレルギーとの関連について討論されました。

第 4 席の発表は県厚生連の中村さんの「戸出球根農家における健康管理活動」でした。

昭和 63 年から平成 2 年までの 3 年間、高血圧を予防するにはどうしたらよいかをテーマとして、検診と調査が行なわれました。

減塩で高血圧が改善された症例も報告されました。

なおこの活動は当初、地区の住民が農薬の影響を心配したことから始まり、「農薬の影響のわかる検診」として行なわれたということでした。幸いに農薬の被害はほとんど無くて、成人病の代表的存在である高血圧者が取り上げられたのだそうです。

第 5 席は滑川病院検診センターの永田さんで、入善地区における癌検診の受診の実態について報告されました。

最近、富山県では癌対策推進会議を中心として癌検診の受診率の向上をはかっておられますが、いわゆる受診率については、これまで県の発表の数字だけが市町村の成績として示されています。

しかし永田さんの報告によりますと、入善地区では検診を受けた人の実数は、県の発表

の数字の数倍あるということでした。

このことは本年度高岡市で実施した癌対策モデル事業のアンケート調査でも、同様の結果が出ています。すなわち調査の行なわれた定塚地区では、平成元年度に胃癌検診を受けた市民の数は、高岡市の公表では7.5%でしたが、職域・医療機関での受診を合せるとその約5倍の人が受診していたという結果でした。

永田さんは癌検診の受診率の向上のためには、受診勧奨はもちろん、受診しやすい体制づくり、更には住民がどこで受診しても、それがきちんと登録されて、実態が把握できるシステムづくりが必要であると結ばれました。

15時10分からは、座長が高岡病院の龍沢院長先生となり、後半の演題の発表にうつりました。

第6席日本健康倶楽部の椎名さんは、1989年に続いて1990年にも呉東の立山・宇奈月・入善の3町で行なわれた、成人老人健康診査結果の地域比較について報告されました。

しかし、これらの3町はいずれも県の東部にある農村地域であり、検診のなまのデータは、それぞれにあまり変わりがなくて、演者の指摘された事項は、推計学的にはあまり意味がないように思われました。

また第1報と第2報の比較の方法が異なっていたことも少し気になりました。

第7席の小川先生は滑川総合検診センターにおける10年間の「胃癌検診の成績と問題点」について報告なさいました。

この間、受診者は38,830人、要精検率16%、精検受診率75%、発見胃癌115、57年以降の胃癌患者110例中では早期胃癌77、進行胃癌33と言う成績を示されました。

さらに問題点として検診対象者の年齢、検診の間隔、精検受診率の向上、内視鏡の導入、検診の精度管理とその向上などを取り上げて、詳しく述べられました。

これに対して越山先生から「長年の御苦勞

をねぎらうと同時に、さらに検診事業の発展を期待する。」という御発言がありました。

続いて本年度に発足した高岡病院の検診センターの棚辺さん(第8席)が、同センター発足以来の8ヶ月に発見された癌について報告されました。

対象者は日帰りドックを受診した2,392名で、発見癌は17(胃癌6、大腸癌4、子宮癌3、乳癌1、その他3)でした。短期間にかなりの数が見付かっているといったお話でしたが、ここでも追跡調査をふくめた検診の精度管理の重要性が強調されました。

第9席の松井さんは滑川検診センターにおける人間ドックで、甲状腺機能異常者を見つめる目的でTSHの測定をされ、肉眼的に甲状腺腫大が認められても、必ずしもTSHの異常はみとめられなかったと報告されました。

第10席の山岸さんは「バリウム排泄に関与する下剤と水分の効果」について、巡回検診の現場で胃検診を受けられた1,000名の方を対象にアンケートをされて、検診直後にプルセニド2錠を水分とともに服用することが、胃検診後の便秘の対策として適切であるという結論に達したと報告されました。

検診の現場で、バリウム服用後に便秘となって苦痛であったと訴える市民が、少なからずありました。

高岡市においては胃検診の際に、本年度から検診の会場に、水飲み場を準備して、下剤の服用をすすめています。この御発表は私どものやりかたが、理にかなっていることを裏付けて下さいました。すべての演題が終了したのは16時20分でした。

昨年も感じたことですが、この集会は厚生連の保健事業に携わるいろいろな職種の方々が一堂に会して、活動の成果を発表する機会であり、参加された皆様が熱心に討論をなさっている様子を拝見して、たいへん感銘しました。なかでも吉田会長さんが最後まで最前列で熱心に聴いておられたことも印象にのこ

りました。

会場には高岡病院の龍沢院長先生をはじめ、加藤・豊田（務）・川東の諸先生、杉原・月安・清原婦長さん、検診センターの野崎さんなども顔を出されておられました。

私もいろいろと教えられることが多く、有意義な一時を過ごさせて戴きまして有り難うございました。

今後本集会がますます発展されますことを願ひ、豊田会長先生の一日も早い御回腹をお祈りしまして擱筆します。

この集会をお世話下さいました大浦さんをはじめ農医研の皆様の御苦勞に深謝します。